



鳶の細道ルート

解説
マップ

R - 0 道の駅(静岡市)	R - 1・AR - 1 鳶の細道登口	900m	峠	600m	R - 1・AR - 1 鳶の細道登口	500m ~	AR - 2 つたの細道公園	100m	L - 2 坂下地藏堂	400m	R - 0 道の駅(岡部町)	Total : 約 2500m ~
----------------	---------------------	------	---	------	---------------------	--------	----------------	------	-------------	------	----------------	-------------------

7 世紀の律令時代に日本の交通制度「駅伝制」ができあがり、鳶の細道は「伝馬の道」でした。平安末期からは官道(国道)となりました。古代の人の往来を偲べるコースで、約 2.5 km、1 時間 ~ 1 時間 30 分程度ルートです。

R - 1 鳶の細道 平安末期から日本の主要街道

- 古代は伝馬の道、平安末期以降は官道(国道)として日本の主要な道でした。「鳶の細道」と呼ばれるようになったのは江戸時代になってからです。峠頂上の標高 210m で、以前は峠からは富士山が眺望できたようです。平均勾配 24 度と急な坂道が続いています。

AR - 1 鳶の細道 文人墨客が愛した道

AR - 1 - 「伊勢物語」 この道が世に広く知られるようになったのは、「伊勢物語」に登場してからです。
- 作者は在原業平(825 ~ 880 年)。平安前期の文学作品と言われ、後世に与えた影響は大きく、「源氏物語」もこの伊勢物語に影響されて書かれたものらしい。伊勢物語には、左遷された業平が偶然に鳶の細道で京の知人の修行僧と出会い、知人への手紙を託したことが書かれています。その驚きと感動を歌にもしました。峠には「駿河なる宇津の山辺の現れにも 夢にも人に逢はぬなりけり」の石碑があります。後世の文人たちは、しきりにこの故事に心を奪われ「鳶の細道の峠越え」に多くの感慨を抱きながら歩いたようです。 P - 1
AR - 1 - 題材として扱われている
平家物語 1184 年 平家の栄華と没落を描いた軍記物語。
「小夜の中山にかかり給ふにも、又越ゆべしともおぼえねば、いとどあはれの数添いて、袂ぞいたく漏れ増さる。宇津の山辺の鳶の道、心細くもうち越えて、手越を過ぎてゆけば・・・」と書かれています。
いざよい 十六夜日記 1279 年 作者：阿仏尼、鎌倉までの紀行文。中世三大紀行文の一つ
「うつつ山こゆるほどにしも、あざりの見しりたる山ぶし行きあひたり。夢にも人をなど、むかしをわざとまねびたらん・・・」
- 貞心海道記 1223 年 鴨長明? 作者不詳 京都から鎌倉、帰京するまで紀行文。中世三大紀行文の一つ
「岡部の里をすきて遙かに行けば宇津の山にかかる。この山は山の中に山を愛するたくみの削りなせる山なり・・・」
- 東関紀行 1242 年 作者：不明 京から鎌倉への紀行文。中世三大紀行文の一つ
「宇津の山をこゆれば、鳶かづらはしげりて昔の跡たえず。かの業平が修行者に言付しけん程は、いづくなるらんと見ゆくほどに。路のほとりに札を立てるをみれば・・・」
「東路は ここをせにせん 宇津の山 哀もふかし 鳶の細道」
・「東海道では宇津ノ谷が最も優れている、中でも鳶の細道はまことに情緒があるところだ」と賛美しています。
- 吾妻鑑 1180 年 ~ 1266 年に至る鎌倉幕府の事績を記録した歴史書 P - 2 源頼朝の妻
「承元 4 年 6 月 12 日 戊辰、御台所の御方の女房丹後局、京都より参著す。駿河国宇津山に於いて群盗等がために、持所の財宝並びに坊門殿より整へ下さるる御装束等、ことごとく盗み取らるるの由、これを申す・・・」
- 宇津山記 1514 年 作者：連歌師宗長 駿河の今川氏や戦国時代を知る資料

AR - 1 - 絵に描かれている



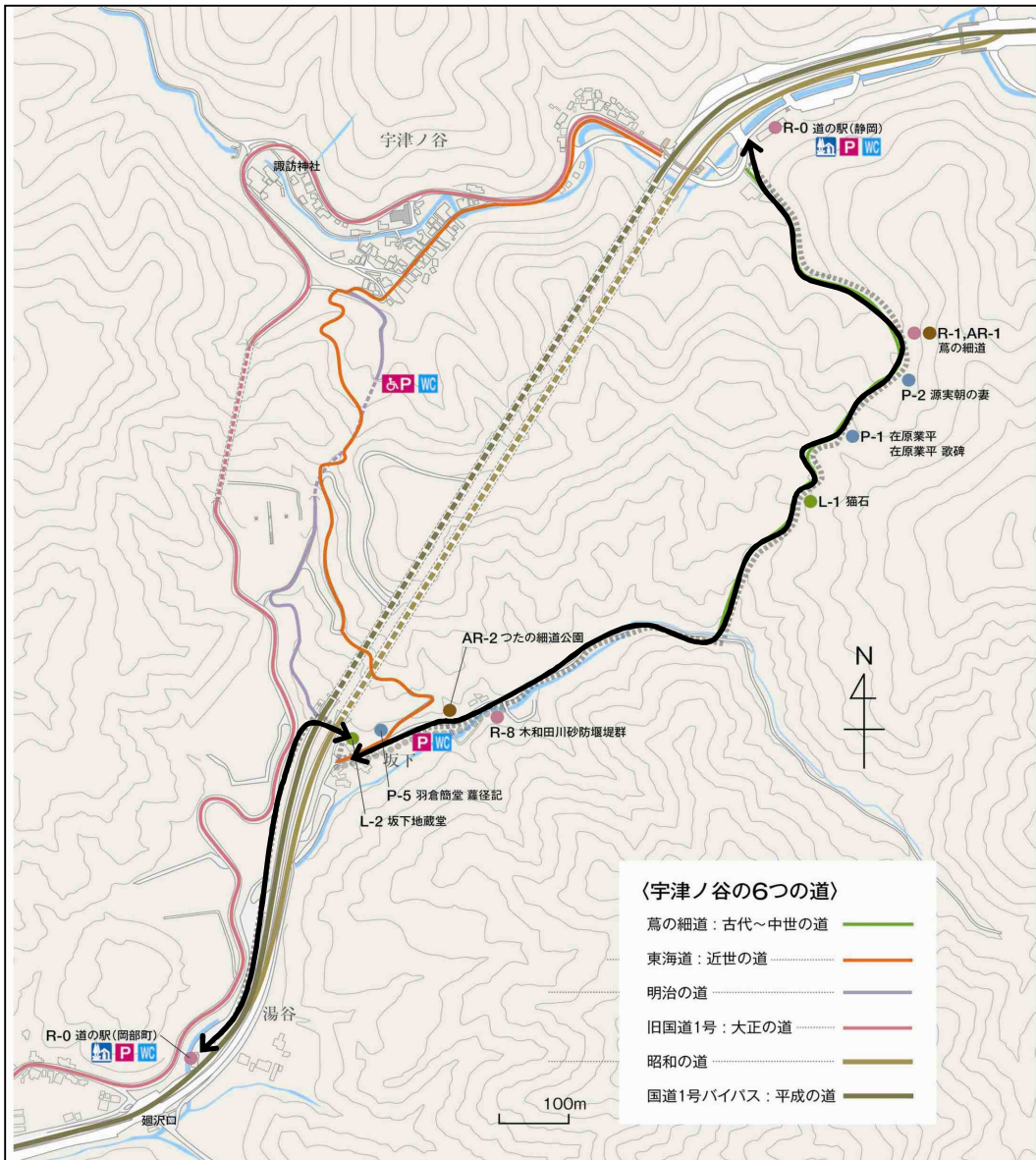
「宇津の山図」山本深川



「鳶の細道図屏風(重文)」東京国立博物館蔵 深江蘆舟江戸中期の画家。尾形光琳に師事し、宗達派の作品に学んだ。代表作に「鳶の細道図屏風」等。

ルートの
学び
ポイント

R - 0 道の駅
R - 1・AR - 1 鳶の細道 P - 1 在原業平・P - 2 源実朝の妻 L - 1 猫石 R - 8 木和田川砂防堰堤群 AR - 2 つたの細道公園 L - 2 坂下地藏堂 P - 4 羽倉簡堂・羅徑記 R - 0 道の駅



「宇津ノ谷」は平安時代の頃からの名称であり、静岡市丸子から岡部町との間の山に一体の広い地域をさしています。「うつ」とは中が空の状態、空虚という意味であるとともに、「うつ」という状況は、そこにこもり、生命を蘇らせることができる不思議な空間とも解釈されています。また「峠」とは地形の境界だけではなく、あの世とこの世の境など色々な意味が内包され、古来より日本には、峠信仰がありました。歌や物語に多く読まれている「宇津ノ谷」は神秘的な場所という面もあるのでしょう。

「宇津の山路」今村紫紅 近代日本画家の鬼才。日本画の革新に闘志を燃やしたが若くしてこの世を去る

P - 1 在原業平 AR - 1 - 参照

みなもとのさねとも

P - 2 源実朝の妻

- 1210年、源実朝の奥方である丹後ノ局が宇津ノ谷で山賊に会い、財宝や装束を略奪されました。この財宝は静岡市羽鳥の建徳寺の馬鳴大明神へ供える予定の供物でした。
- 吾妻鏡によると、この事件以降、駿河より西の街道には夜警の組織をつくり旅人の警護を強化したそうです。

L - 1 猫石

- 古代峠信仰の石。峠神の磐座であり、神社原形の一つ。その周辺は神聖な場所として崇められる所です。
- 峠の鞍部の手前(西側)約100m付近は、比較的平らなところがあり、神社平等とよばれ、古代峠信仰の重要な地点と推定されています。



「猫が伏せたような形をしている…?」
色々な角度からみてください。



伊勢物語の在原業平が知り合いの修行者と偶然であった場所が神社平等とされています。



R - 8 木和田川砂防堰堤群 1号から8号まですべて登録有形文化財

- 明治43年の豪雨による山腹崩壊を契機に、県が建設した石積砂防堰堤群です。
- 下流から上流に向かって一号、二号の順に八号堰堤まで配置され、立面形状から「兜堰堤」とも呼ばれており、最大規模は二号堰堤の堤長25mです。明治期の構造形式を踏襲しつつ、台形越流部という近代的技术が加味され、現在は周囲の緑が回復し、石造構造物も一体となって、渓谷の自然景観とよく馴染んでいます。
- 国道1号から8号堰堤までの距離は約1.7kmあり、途中足元の悪い所もあります。

AR - 2 つたの細道公園 以下の人の歌の板碑があります

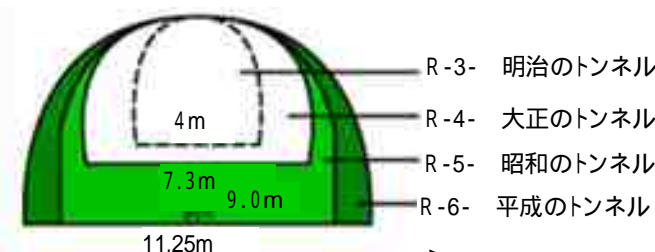
- 藤原俊成(1114~1204年)平安~鎌倉時代の歌人。藤原定家の父。万葉集や古今集の伝統を踏まえつつ平安末期の無常観、抒情性の豊かな歌風を確立しました。
- 藤原定家(1162~1241年) 歌道の名門を確立し、後世の歌に大きな影響を与えました。新古今和歌集(1205年成立)「新勅撰和歌集」などを撰進。
- 鴨長明(1155~1216年)歌人、随筆家。「方丈記」の作者。
- 兼好法師：吉田兼好(1283~1350年)鎌倉、南北朝時代の歌人、随筆家。「徒然草」の作者。
- 在原業平(825~880年)平安時代初期の貴族、歌人である。六歌仙、三十六歌仙の一人。桓武天皇の孫にあたり、在原氏の五男で右近衛中将であったため、別称在五中将とも言われています。
- 阿仏尼(1222?~1283年)鎌倉時代中期の女流歌人。鎌倉までの紀行文「十六夜日記」の作者。
- 林羅山(1583~1657年)朱子学者、江戸幕府の土台となる制度や儀礼に大きく係わります。
- 下田歌子(1854~1936年)明治時代女流歌人、教育者でもあり「日本が一流の大国と成らん為には大衆女子教育こそ必要」と日本の女子教育に尽力しました。
- 片山静枝 現代の歌人

R - 5 昭和トンネルの道 R - 5 - 昭和トンネル

- 昭和トンネルは、昭和32年に着工し、34年に開通した844m×9m×6.6mのトンネルです。幅員が9mは我が国最大の断面であり、自動車交通の増大を見越して新たにつくられました。平成9年の平成トンネルの工事にあわせて補強し862mとなっています。

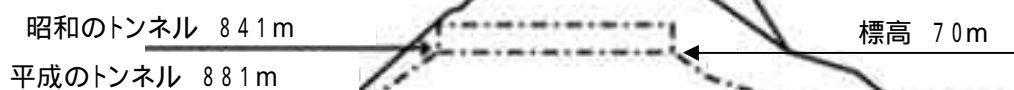
R - 6 国道1号バイパス R - 6 - 平成トンネル

- 昭和44年に東名高速道路が開通し、国道1号の交通量は一時的に緩和されましたが、慢性的な交通渋滞を解消するために、昭和トンネルの南側に並行して、平成トンネルを整備しました。
- 着工は平成2年、完成は平成7年、長さ881m×幅員11.25m×高さ6.58mのトンネルです。



明治トンネルの長さは203m、大正トンネルは227m、昭和トンネルは844m、平成トンネルは881m、同じ地区を通過するトンネルでも長さが違うのはなぜか…!?

トンネルの幅員は通行量が増えることに比例し、だんだん広がってきています



答えは「標高」にありますよー。

P - 4 羽倉簡堂 蘿徑記 駿河の代官の嘆き? 静岡県の名碑!

- 「蘿」はつた「徑」小道を記わします。
- 文政13年(1830年)から9年間駿府代官であり、歌人でもあった羽倉簡堂が文学的に価値の高い蕨の細道が廃道になっているのを嘆いて建立した。文字は当時「江戸時代の三筆」といわれた市河米庵によります。
- 道路整備における2度の移転を経て、現在の場所にあります。

R - 0 道の駅 道利用者の快適性を高める施設

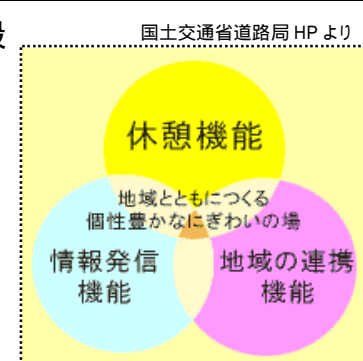
- 道を使う様々な人が安心、快適に道路を利用するため平成5年からはじめられた制度です。
- 右図の3つの機能を持った施設として整備されています。

<提供するサービス(道の駅の条件)>

- 駐車場・トイレ・電話は24時間利用が可能。
- 案内人がいて親切に地域の情報を提供する体制。

<地域側施設の設置者(道の駅の条件)>

- 全国には868箇所(H19年8月現在)整備されており、静岡県内には19箇所あります。



地場産品が買えるぜい

